

原 著

愛知県安城市療育システムの中での 作業療法士の位置づけ —SACTによる分析—

The Role of occupational therapist on medical treatment and
education system in Anjyo city
-qualitatively analyzed by SCAT

山田 恭子

Takako YAMADA

平岩 明美

Akemi HIRAIWA

抄 録

愛知県西三河地方において作業療法介入を行ってから10年以上が経過した。現場スタッフが作業療法士の介入をどのように捉え、作業療法士に何を要望しているかの2点を明らかにするため、自由記述形式の質問紙法で問うた。質問へ自由記述されたものをSCATによる分析によって明らかにしたところ、子どもの身体の動きが良くわかることが自信を持った良き療育に反映できた、スモールステップを明確にした療育が可能になったなどに集約できた。

ただこのような質問による意見集約は今後も共に協働していくことが明らかな作業療法士たちに表立った批判的な内容は書きにくい側面は免れない。要望を反映して協働による療育への参加を続けていきたい。

キーワード■作業療法、協業、質的分析、発達障害、療育

<はじめに>

作業療法士と多職種との協業については先行研究が出されているのを散見する¹⁻⁵⁾。多くは身体障害領域分野の中での協業を考察したものであるが、発達障害・療育の中での協業に焦点をあてたものもある⁶⁻⁸⁾。愛知県西三河地方にある安城市に作業療法士が関わって10年以上が

経過した。当初は3歳以上の児が通園する知的障害児施設に1ヵ月に1度の頻度で要請されているだけであったが、次第に回数が増え、関与する施設も増えていった。そこで介入方法の再検討を行いたいため、質的研究による分析を行うことを目的とする。

安城市は愛知県の内陸部に位置する人口約18万人の中核都市である。安城市の障害児療育に作業療法士が関わるようになったのは、平成10年度のことである。ここに安城市療育システムの中で作業療法士が介入している状況を概観し、現場のスタッフらの評価とともに今後の課題も報告する。尚、当該施設での倫理審査は受けている。対象者には研究への参加について書面での同意を得たうえで実施した。

＜安城市療育システム概要＞

1歳6ヵ月検診で、発達の遅れを疑われる子どもたちが、保健センターの親子教室にて、月2回午前中のみの活動に参加する。その中から、継続的な支援が必要なこどもは療育センターやまびこルームへの移行を促す。やまびこルームは平成3年設立の未就園児対象の親子通園施設である。職員は園長、保育士、言語聴覚士（委託）、作業療法士（委託）、心理担当（委託）であり、作業療法士は平成21年度から月1回介入している。3歳児になると療育の必要な子どもはサルビア学園に入園する。サルビア学園は昭和50年設立の定員35名の知的障害児通園施設である。職員は園長、保育士、言語聴覚士（委託）、作業療法士（委託）、理学療法士（委託）、心理担当（委託）であり、作業療法士は平成10年より勤務している。作業療法士の委託日数は当初月1回だったのが、現在は月5回の委託日数である。また平成19年度より「障害児等療育支援事業」の一環として市内にある30公私立保育園に作業療法士（委託）、心理担当（委託）は行き指導を行っている。当初年16回だったのが、現在は24回の委託日数である。また作業療法士は障害児の保育園入園を審査する「障害児保育審査会」にも平成21年度より参加している。

＜作業療法士の活動内容＞

やまびこルームでの活動内容は、作業療法士は午前中の療育を観察し、適宜保育士、保護者への指導を行う。昼食時の食事指導、午後は保護者同士の話し合いの中に入り、相談を受ける。サルビア学園では、現在個別指導とクラス指導の両輪で介入している。個別指導では保護者同席のもと訓練することが基本である。まだ障害受容が難しい保護者に、状態像を提示するとともに、対象児が遊べる作業を提供し、理解してもらうことも主眼にしている。個別指導は一人当たり2-3ヵ月に1度の割合で作業療法が入るにすぎないが、作業療法実施日には必ず保育士を交えてのフィードバックを行い、クラス担任と作業療法士との情報共有を密にしている。細

かな作業療法評価は行えないが簡単な認知機能スケールとして LDT-R を使用している。保育園指導では園側から気になる子どものリストがあげられる。午前中に子どもの観察をしたのちに、午後保育士、市役所当該部署担当職員との話し合いが行われている。

＜対象と方法＞

対象はサルビア学園スタッフ 13 名とやまびこルームスタッフ 5 名、およびサルビア学園保護者 35 名である。方法は質問紙にて調査を行い、記述内容について質的に分析した。その質問内容は、「1. 作業療法士が関わったことで良かった点をご記入ください。療育システムにとって、あるいは子どもにとってあるいは職員にとってあなた自身にとって等、何れの観点でも御考えをご記入ください。2. 作業療法士にこうあってほしい、あるいはこのように動いてほしいという要望がありましたらご記入ください。」の 2 点である。

具体的分析方法を以下に記す。

使用した分析方法は大谷による SCAT 分析である⁹⁻¹⁰⁾。少量のデータに関しても適用可能であり、特に質問紙の自由記述の分析に適しているとされる方法でコーディングする。

コーディングの手順は以下のごとくである。

- ① データの中に含まれる言葉を抽出する
- ② データの中にある言葉を言いかえるようなデータにない言葉を見つける
- ③ ②と関わるようなデータにない概念でデータの内容を説明するような概念を見つける
- ④ ③に基づきデータにない構成概念を創り出す
- ⑤ 以上を行いながら、同じデータの他の部分や他のインタビューなどと比較しようと考え、フォローアップインタビューが必要だと考える点、文献にあたって調べようとする点なども書き出す。その上で④に基づいて小さなストーリーを作る。作った小さなストーリーラインを、別の部分の小さなストーリーラインへとつなぎ合わせる方法を取る。

＜分析結果＞

サルビア学園保育士への分析結果は表 1 及び表 2 にまとめた。そのストーリーラインとしては、サルビア学園への作業療法士の介入により、保育士は①体の動きが理解でき、そのことにより自信を持って療育に取り組むことができると感じていた。さらに②楽しい遊びを創ることの重要性がわかった、と捉え、スモールステップを明確にした療育が可能になったと自信を深めていた。さらに③園児の親は作業療法士からの適確なアドバイスを得ることができており、親の支えになっているだろうと推測していた。ただ作業療法士が個別指導だけで子どもの姿を論じることへの不満があり、療育場面での 1 日の流れを通して集団における子どもの姿を見て

論じてほしいとの要望が明らかになった。以上のストーリーラインを図1に示す。

療育センター保育士への分析結果は表3及び表4にまとめた。そのストーリーラインとしては、サルビア学園への作業療法士の介入により、保育士は①身体の使い方がよくわかったことで、それをうまく療育に反映できるようになったと感じていた。さらに介助の方法がわかった、と捉え、適切な援助方法につながったと自信を得ている。さらに③園児の親は作業療法士からの適確なアドバイスを得ることができており、親の支えになっているだろうと推測していた。そして質問2に関しては現状で満足しているとの意見が多かったが、保育士と共に、こどもの障害を受け入れにくい親の思いに共感して支えてほしいとの要望が出されていた。以上のストーリーラインを図2に示す。

次に、サルビア学園保護者の記述をストーリーラインにまとめると、作業療法士の個別介入を受けることにより、保護者は①子どもの状態をよく理解できたととらえており、そのことにより、子どもの見方、接し方が変化したと認識していた。さらに作業療法セッションを間近で見ることにより、②子どもの成長を感じ、それにより子育てにまえむきになれたと振り返っていた。また③作業療法セッションを受けているとき、子どもが楽しんでいる姿を確認できそれを自宅での遊びに応用できていると、確認していた。以上のストーリーラインを図3に示す。

表1 質問1に対する記述をSCAT分析したもの

発話者	テキスト	〈1〉 テキスト中の注目すべき語句	〈2〉 テキスト中の語句の言い換え	〈3〉 左を説明するようなテキスト外の概念	〈4〉 テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	〈5〉 疑問・課題
サルビア1	子どもの訓練の様子を報告してくれるので集団ではない姿や個々の弱い部分を伝えてくれるので良かった。 また弱い部分が明確になることで、その日々の療育でどんな支援をしていったらよいのか、どんな関わりがよいのかアドバイスがもらえた。普段の療育中に困っていることを事前に相談でき、訓練の中で問題解決の糸口を見つけてもらえるのでよかった。 私自身が今回の報告を聞くことで体の機能や障害に対する知識を高めていくことで、活動や遊びの中にそれらを参考に組み立てる力がついたと思う。大変勉強になりました。	集団ではない姿や個々の弱い部分を伝えてくれる弱い部分が明確になる どんな支援をしていったらよいのか、どんな関わりがよいのかアドバイス療育中に困っていることを事前に相談 問題解決の糸口 体の機能や障害に対する知識 活動や遊びの中にそれらを参考に組み立てる力	子どもの評価を伝える 明確な評価の焦点化 介入へのアドバイス 療育中の困りごとへの対応 問題解決へのヒント 療育へのOTアドバイスの反映	OTの視点は保育士にはない視点 介入へのアドバイスが困っているときの問題解決の拠り所になる	介入へのアドバイスが療育へ役立つ自信を持って取り組める	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア2	療育にとってはOTを受けることで、保護者に身体を使って遊ぶことの大切さや、個々の特徴を知って頂き、障害を受容していくのに重要なステップになっていると思います。作業の内容を報告して頂くことで、職員が訓練と家庭の間の橋渡しもできると思います。子どもにとっても必要な動きを療育の中で意識していくことで発達を促していると思います。私自身は日頃子どもと接していて「何で？」と思ったことにすぐに答えて頂けるので納得して療育にあたる事ができます。自分の勉強不足と力不足で十分生かせていない部分はありますが、今後努力したいと思います。	保護者に身体を使って遊ぶことの大切さや、個々の特徴を知って頂き、障害を受容していくのに重要なステップ 訓練と家庭の間の橋渡し 必要な動きを療育の中で意識していくことで発達を促している 日頃子どもと接していて「何で？」と思ったことにすぐに答えて頂ける	保護者への的確な説明 障害受容への大切な段階 家庭への適切な説明 療育へのOTアドバイスの反映 疑問に対する適切なアドバイス	保護者への説明に専門的な視点が反映される	保護者は的確なアドバイスを受ける	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア3	個々の子どもたちに、同じ時間同じ行動を取らせることが多い集団生活の中で、見た目の感覚や病名に捕らわれた判断で療育をしてしまうことになってしまい、成長が見られない、進歩がない、動きが少しずつ悪くなって入るなど、保育士ではどのようにしたら動きがスムーズになるのか、何の動きが悪くてこのような動き、姿勢になってしまうのかがよくわかりません。関わって頂くことによって機能の未発達な部分や、一つの動作を成し遂げる前の段階をその子に合った動作の療育の療育の仕方を教えて頂き、そこからスタートすることによって少しずつ段階をあげていくことで子どもも苦痛なく、保育士もゆとりを持って子どもと向き合えることができるようになったと思います。	機能の未発達な部分や、一つの動作を成し遂げる前の段階をその子に合った動作の療育の療育の仕方を教えて頂き、そこからスタートすることによって少しずつ段階をあげていくことで子どもも苦痛なく、保育士もゆとりを持って子どもと向き合えることができるようになった	OTアドバイスを療育へ反映	専門的な見方は療育に有用	介入へのアドバイスが療育へ役立つ	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か

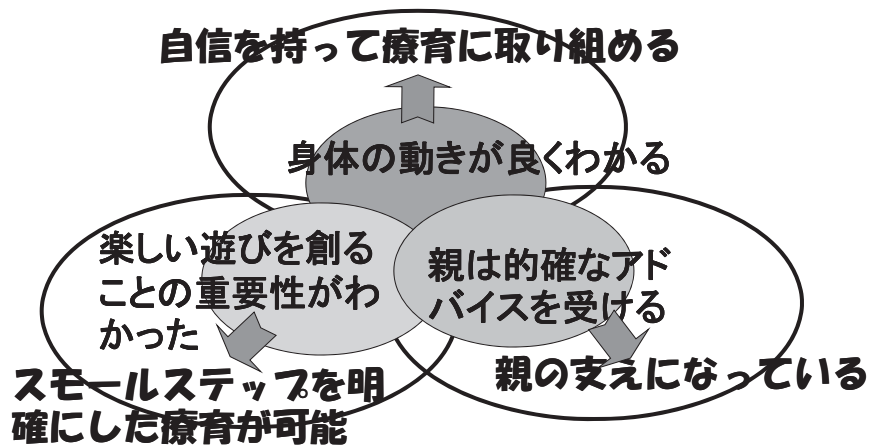
サルビア4	子どもにとってどういう動きがどう発達につながるのか、ということ指導してもらうことで、その子をより理解することができても療育の参考になります。 一緒に子どもの発達に関わってくださることが自分にとっても自信だったり、もっと知りたい、こんなことを子どもにさせたい、などの意欲につながっています。 療育システムになくてもはならないと思っています！！これからよろしくお願いします。	どういう動きがどう発達につながるのか、ということ指導してもらうことで、その子をより理解することができる 自分にとっても自信だったり、もっと知りたい、こんなことを子どもにさせたい、などの意欲につながっています 療育システムになくてもはならない	適切な評価の伝達は適切な理解指導につながる 子どもの理解が深まることは保育士にとっての仕事の意欲につながる	OTの視点は保育士にはない視点 保育士が困っているときの問題解決の拠り所になる 仕事のモチベーション向上	介入へのアドバイスが療育へ役立つ 自信を持って取り組める	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア5	専門的な視点から子どもの状態や問題点など、自分ではわからなかったことを知ることができ、子どもへの理解が深まった。 報告等で聞いたことを日頃の療育で意識して子どもと関わることで、子どもの発達が促された。 自分が疑問に思ったことや子どもの状態について質問して答えてもらうことで、安心して療育に取り組めることができた。	専門的な視点から子どもの状態や問題点など、自分ではわからなかったことを知ることができ、子どもへの理解が深まった。 療育で意識して子どもと関わることで、子どもの発達が促された 安心して療育に取り組める	OTの適切な評価問題点を伝えることは保育士にとっての理解が深まり、それによって子どもの発達が促される 保育士の安心感	仕事の不安解消 OTの視点は保育士にはない視点 子どもの発達促進	介入へのアドバイスが療育へ役立つ 子どもの発達促進	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア6	日々の療育の中で、これはどうするべきかという問題が出た時、すぐに先生方に聞くことができ、アドバイスをいただけるのでとても心強いです。 毎日一緒に子どもたちと過ごしていますが、見ているようで見えていない部分があることを、先生方の報告時、知られることがあります。子どもたちへの接し方など見直すことができます。それに一人一人の接し方へのポイント(遊び方など)を教えて頂けるので、日々の療育の中で取り入れていきます。 初めは何の目的もなく、ただ遊ばせれば良いと思っていました。数年、勤務し先生方の話を聞きながら今日は〇〇をポイントに遊びをさせるといふ子どもたちにとってどんな動きを経験させていったほうが良いか少しずつ理解できるようにになり私なりに取り入れることができるようになりました。(まだまだ的確ではないですが) 先生方の話を聞くことで、勉強になることたくさんあります。	これはどうするべきかという問題が出た時、すぐに先生方に聞くことができる 見ているようで見えていない部分があること 子どもたちへの接し方など見直すことができます 一人一人の接し方へのポイント(遊び方など)を教えて頂けるので、日々の療育の中で取り入れていきます 今日は〇〇をポイントに遊びをさせるといふ子どもたちにとってどんな動きを経験させていったほうが良いか少しずつ理解できる	保育士の困り感への対応が役立つ 作業療法士の視点は保育士が今まで持てなかった視点である 作用療法士から示唆された対応が役立つ 療育に反映できる	専門家養成のシステムの違い 視点が独特 子どもの発達促進 よりよい活動 明確なミッションを持つての療育	楽しい遊びを創ることの重要性 子どもの発達促進に寄与	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア7	手・足の動き、身体の動きの仕組みを説明して下さるので理解しやすいです。 子どもの動きに対して、こうすればより良くスムーズになるという説明がわかりやすくて良い。	手・足の動き、身体の動きの仕組みを説明して下さるので理解しやすい 子どもの動きに対して、こうすればより良くスムーズになるという説明がわかりやすい	障害児の体の仕組み・身体の動きの理解が役立つ 説明に納得できる	保育士の知識がOTの知識と違う 運動への着眼	体の動きが良くなる	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア8	先生たちに見て頂くことによって、一人一人の運動能力や細かい手の動きなど、その子に合った療育ができます。その子に合った体の使い方、補助の仕方を専門的な知識から教えて頂けるのでとても勉強になります。	一人一人の運動能力や細かい手の動きなど、その子に合った療育ができる 体の使い方、補助の仕方を専門的な知識から教えて頂ける	子どもの身体の理解が深まることで、良い療育につながる	OTの視点が保育士と違う 子どもの発達促進	体の動きが良くなる	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か
サルビア9	私を含め一般の保育士は知的障害児のかかえる問題に身体的機能の弱さや偏りがあることをあまり知りません。ほとんどの保育士はサルビア学園に勤務し、作業療法士から話を聞くことで、その事実とその観点の重大さを初めて知ります。 サルビアに作業療法士が関わっていなければ一般的な保育の延長、もしくは個々の発達を十分にとらえないまま勘に頼っていたり、手探りの療育を進めていると思います。 作業療法士の指導を参考に子どもたちの発達に則した療育が行われているので(行うよう努めている・・・)それは結果として障害をもつ子どもたちの育ちを手助けしていると思うので、今後も作業療法士にはより多くサルビア学園に関わってもらいたいと思います。 また作業療法を受けながら作業療法士に質問をしたりアドバイスをもらえることは、障害を持つ子どもたちの親たちの力強い支えにもなっていると思います。	一般の保育士は知的障害児のかかえる問題に身体的機能の弱さや偏りがあることをあまり知りません 作業療法士から話を聞くことで、その事実とその観点の重大さを初めて知ります 作業療法士が関わっていないければ一般的な保育の延長、もしくは個々の発達を十分にとらえないまま勘に頼っていたり、手探りの療育を進めている 作業療法士の指導を参考に子どもたちの発達に則した療育が行われている 障害を持つ子どもたちの親たちの力強い支えになっている	障害児の体の仕組みや動きの特徴についての理解が深まる。 これらの知識に基づき療育を組み立てることで子どもの発達が促せる	保育士の教育の不十分さを自覚 OTの視点に新たな発見 的確な評価がより良い療育へとつながる	介入へのアドバイスが療育へ役立つ 自信を持って取り組める 的確な評価がより良い療育へとつながる	介入回数は適確か 保育士への伝え方は適確か

愛知県安城市療育システムの中での作業療法士の位置づけ（山田恭子・平岩明美）

表 2 質問 2 に対する記述を SCAT 分析したもの

発話者	テキスト	〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外の概念	〈4〉テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	〈5〉疑問・課題
サルビア 1	集団の療育に入り個人と違う子どもの姿も見えてほしい。	集団の療育に入り個人と違う子どもの姿も見えてほしい	OT は集団療育への関心をもつ	個別と集団	療育集団への介入	療育介入への適切な時間は？
サルビア 2	OT の先生方が、サルビア学園だけでなく、やまびこや保育園など活動の場を広げてくださっているので、今後も安城市の障害児療育のためにどんどん意見を言っしてほしいと思います。 学園に来たばかりは特にですが、専門用語が多いとなかなか理解できません。子どもの日頃の生活や遊びと結び付けていただけるとわかりやすいです。 報告はなるべく担当が聞くようにしていますが、記録をあとから見直すこともあるので見やすく書いていただけると嬉しいです。 今後も安城市の障害児療育のためによりしくお願いします。	安城市の障害児療育のためにどんどん意見を言っしてほしい 専門用語が多いとなかなか理解できません 子どもの日頃の生活や遊びと結び付けていただけるとわかりやすい 記録は見やすく書いてほしい	地域の質向上のための意見を言う 平易な言葉の使用 わかりやすい記録 生活と遊びの関連	他者が見てもわかる記録の有用性 知識を社会のために還元	他者がわかる記録 平易な言葉の使用	
サルビア 3	どこまでをおねがいしてよいのか、わかりませんが、いろんな場面を見てもらい（保育の 1 日の流れ）その中で一人一人気付いた点を教えてもらい、それを参考にしながら療育の時だけでなく 1 日の流れの中で実行できればと思います。（ある 1 日だけでなく機会があれば何日でも、季節によって違うので）	いろんな場面を見てもらい（保育の 1 日の流れ）その中で一人一人気付いた点を教えてほしい	集団場面での OT 評価をしてほしい	個別と集団	療育集団への介入	具体的にどこを見てほしいのか？ 回数はどのくらいが適切か？
サルビア 4	個人の OT だけでなく、クラスの療育現場でも生活面の様子を見てもらえうと嬉しいです。	クラスの療育現場でも生活面の様子を見てほしい	集団場面での OT 評価をしてほしい	個別と集団	療育集団への介入	
サルビア 5	日頃の生活や療育をじっくり見てもらい、いろいろなアドバイスをもらえる機会がたくさんあったらと思う。（朝の支度、椅子、給食など）	日頃の生活や療育をじっくり見てほしい、いろいろなアドバイスをもらえる機会がたくさんあったらと思う。（朝の支度、椅子、給食など）	集団場面での OT 評価をしてほしい	個別と集団	療育集団への介入	
サルビア 6	分らない事がたくさんあり、いまだにわかっていない部分もたくさんあります。的外れな質問、答え方をしようと思います。すみません。でも子どもたちにとって何をしたらよいのか、日々考え対応しています。とまどった時など、先生方にアドバイスを頂き取り入れていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。	とまどった時など、先生方にアドバイスを頂き取り入れていきたい	困り感が生じたときのアドバイスを求める	OT の視点が療育に反映されることの期待	療育集団への介入	
サルビア 7	今までのままで良いです。	今までのままで良い	現状満足	現状満足		
サルビア 9	サルビアに勤務する保育士は障がいのこととも身体のこととも発達のこととも情けないほど大ざっぱにしか知らなくて、皆サルビアに来たら一から勉強です。私もです。私たち保育士の仕事は作業療法士から受けたアドバイスや個々の情報を元にそれを集団生活の中で活用し、楽しいあそびを作っていくことだと思っています。しかしその技術の習得にはとても時間がかかり少しわかってきたところで異動・・・転動というのが現実です。的外れにならない確かな療育を日々進めていくために「クラス指導」を大幅に増やしてもらいたいんです。午前はクラス指導、午後は個別訓練（できなければ午前の 1 時間だけでも毎回クラス指導をいれる）という風にして日々私たちが行っている療育の現場にもっと入ってもらい、そこで指導が受けられると療育の質はもっともっと向上すると思います。サルビアには専任の保育士がいないのですから・・・ 又、サルビアだけでなく保育園、幼稚園、やまびこルームにももっとたくさんの作業療法士が関わってくだされば生きづらい子どもたちが楽しく過ごせ、それを取りまく大人たちも関わりやすくなると思います。 乱筆乱文すみません。これからよりしくお願いします。 逆パターンで保育士に対する要望も聞かせてください。是非。	保育士は障がいのこととも身体のこととも発達のこととも情けないほど大ざっぱにしか知らない 保育士の仕事は作業療法士から受けたアドバイスや個々の情報を元にそれを集団生活の中で活用し、楽しいあそびを作っていくこと 「クラス指導」を大幅に増やしてもらいたい 療育の現場にもっと入ってもらい、そこで指導が受けられると療育の質はもっともっと向上すると思う	集団場面を見ての OT 評価をしてほしい	個別と集団	療育集団への介入	療育介入への適切な時間は？ 具体的にどこを見てほしいのか？ 回数はどのくらいが適切か？

サルビア学園保育士の意見から (回収率70%)



要望：個別指導だけではなく、集団での子どもの姿を見てほしい

図1 サルビア学園保育士の意見のストーリーライン

表3 質問1に対する記述をSCAT分析したもの

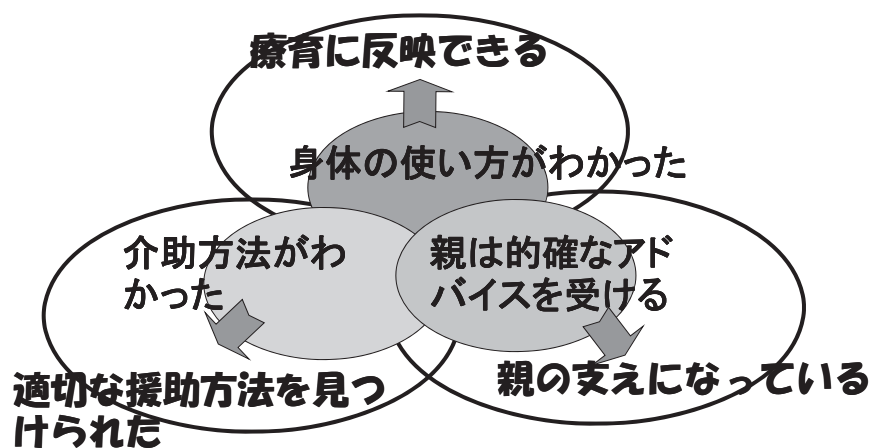
発話者	テキスト	〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外の内容	〈4〉テーマ・構成概念 (前後や全体の文脈を考慮して)	〈5〉疑問・課題
やまびこ2	良かった点として、OTが今まで関わっておらず体の使い方のフォローに関して、少しの知識の中で多分こうだろうという曖昧な、考えれば危険な助言をしていたと思う。今まではいろいろな面で助言をいただき勉強になっています。らいおんGに関しては特にそうですが、昔は病院で介助の仕方や食事の仕方を聞いてきてスタッフに伝えてくれていたのが、最近の保護者はなかなかk病院へはたどりハビリに行き満足しているようで、関わり方介助にやや疑問を感じています。先生が来てくださるようになり今まで曖昧だった部分が確かなものとして保護者に伝えてあげることができるようになりました。まだまだ勉強不足ですが先生のアドバイスと保育士としての立場での話をまとめて母たちには療育に来て良かったといってもらえるよう今後も勉強していきたいです。	体の使い方のフォローに関して助言をいただいたが曖昧な部分の明確化が確かなものとして保護者に伝えてあげることができる	姿勢、体の使い方の理解が深まった。曖昧な部分の明確化	子どもの運動障害への気付き 自分の足りなさへの自覚	運動障害への気付き 介入方法がわかる	
やまびこ3	障害のある子の発達過程は特別なものであると以前考えていましたが、山田先生にいろいろ教えていただくことで、どの子も同じような順序で発達していくことを学びました。子どもの発達過程をしっかりと理解することが障害のある子のための適切な援助方法を見つけることができるとわかりました。	どの子も同じような順序で発達していくこと 子どもの発達過程をしっかりと理解することが障害のある子のための適切な援助方法を見つけることができる	発達の順次性の理解 適切な援助の大切さ	OTの視点への共感 発達順序の重大さへの確認	新たな視点への気付き	
やまびこ4	体の使い方を意識して生活したことはほとんどなく、お話を聞いて驚くことばかりでした。具体的な方法で個々に教えていただけるのでお母さんと一緒にこれからのことが考えていけるので良いと思う。	具体的な方法で個々に教えていただける	適切な個別への介入	OTの視点への共感	介入方法がなかったことで適切な援助方法が見つけられる	
やまびこ5	療育システム：昨年より作業療法士の先生が入ってもらってスタッフもいろいろなことを学ぶことができる。子ども：いろいろな面から療育できることは療育効果を上げれる。はじめはつらいこともあったけど積み重ねることじぶんのようになっていく。母には少々きついこともある関しれないが事実と向き合うことや子どもを正しく理解し関わっていくことは大事と思う。職員：子どもと母親に支援するときにとても参考になる。又、疑問に思っていることを聞いて母子に返すことができて専門性を高めることができる。自分：基本を学ぶことができいつも勉強になっている。今後も自分の専門性を高めるためにも感じたこと、疑問に思ったことを聞いていきたい。	スタッフもいろいろなことを学ぶことができる いろいろな面から療育できる 事実と向き合うことや子どもを正しく理解し関わっていくことは大事 疑問に思っていることを聞いて母子に返すことができ専門性を高めることができる	スタッフの理解が深まる スタッフの理解の深まりが質の高い療育へ反映される	OT評価への共感 子どもの発達促進につながることを確認	介入へのアドバイスが療育へ役立つ 子どもの発達促進 保護者は適切なアドバイスを受けられる	

表4 質問2に対する記述をSCAT分析したもの

発話者	テキスト	〈1〉テキスト中の注目すべき語句	〈2〉テキスト中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外概念	〈4〉テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	〈5〉疑問・課題
やまびこ1	いつも貴重なご意見をありがとうございます。療育センターでいろいろな角度から見ていただいての意見を聞かせていただいたので今後参考にしていきたいです。	いろいろな角度から見ていただいていたので今後参考にしていきたい	現状満足	現状満足		
やまびこ2	今のままで満足しています。ただ一つ、この療育に通う母にとってはまだ受容しきれておらず宙ぶらりん状態の母が大半です。結果的に先生の助言がきっかけになり子の姿を見直す良いきっかけになっていますが・・・気がなる子の母にはどう伝えることが良いのかまだ自分もよくわかりませんが、受容しきれていない母への伝え方を一緒に考えていけたら良いなと思います。	今のままで満足している 受容しきれていない 母への伝え方を一緒に考えていけたら良い	現状満足 障害上で来ていない母への思いに共感してほしい	現状満足 保護者対応を求める	保護者対応へ保育士とOTの協業での対処を求める	
やまびこ3	今まで通り子どもへの関わり方のヒントを教えてください。	今まで通り子どもへの関わり方のヒントを教えてください	現状満足 具体的な指導	現状満足		
やまびこ4	現場で個々の様子を見てもらい具体的に教えてもらえる今までのようにお願いしたいと思っています。	今までのように現場で個々の様子を見てもらい具体的に教えてもらえる	現状満足 具体的な指導	現状満足		
やまびこ5	基本が一番大切だと思いますが、最新の情報等も教えてください。早期発見、早期療育を作業療法士の先生としての思いを知りたい。	最新の情報等も教えてください	最新の情報提供を求める	情報充足への欲求		

療育センター保育士の意見から

（回収率100％）



要望：子の障害を受け入れられない母の思いを保育士と共に受け止めてほしい

図2 療育センターやまびこルーム保育士の意見のストーリーライン

サルビア学園保護者の意見から

(回収率66%)

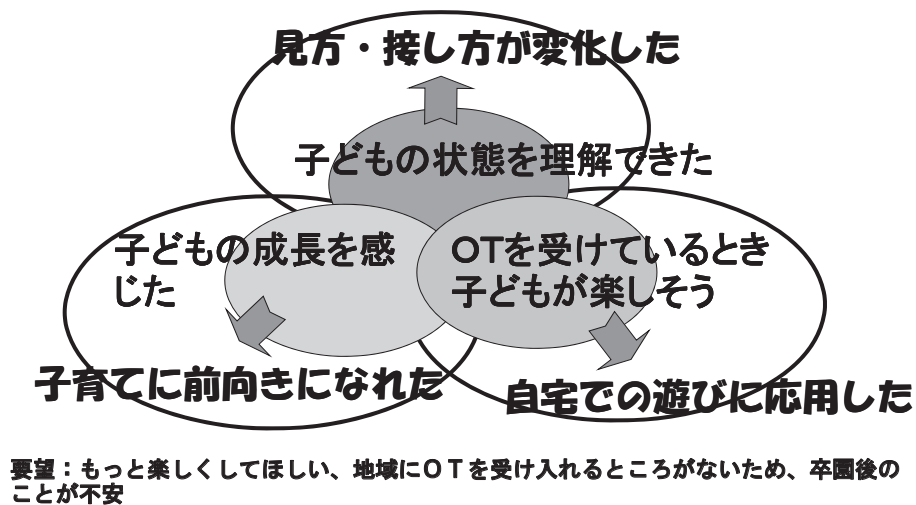


図3 サルビア学園保護者の意見のストーリーライン

＜考察＞

安城市の療育システムの中に、作業療法士が関わり始めて10年以上が経過した。1歳半検診で要観察となった親子が関わるやまびこルーム、3歳以上就学前までの子どもが通う知的障害児通園施設のサルビア学園への作業療法指導に定期的に関わり、さらに「障害児等療育支援事業」として市内保育園、幼稚園への訪問事業で保育士・幼稚園教諭からの相談を受けている。「障害児等療育支援事業」は言語聴覚士と心理士との共同事業であるが、やまびこルーム・サルビア学園での事業は作業療法単独の事業であることから、利用者の意見を我々作業療法士に反映しやすく、我々の行った事業の振り返りが次への我々の事業にフィードバックしやすいと考えた。そのため、意見聴取するためには自由記述を主体とした質問紙法が適切だと考え、その分析には少量データでも分析が可能とされているSCAT分析をおこなった。

療育事業を担っている仲間との作業療法士の協業については、岸本がコメディカルスタッフとの役割で述べており¹¹⁾、加藤も特別支援教育の現場で作業療法士が、給食指導場面において評価指導しているとの報告をあげている¹²⁾。安城市での作業療法士の仕事はサルビア学園では、個別介入後のフィードバックで作業療法評価を提示することを主としたものであるが、ここでの作業療法評価が保育士にとっては、彼らの専門的な見方とは違う園児の全体像を作業療法士は提示したと捉えたようである。やまびこルームでは個別介入は行わないが親子指導をしている場面での観察評価をグループ指導終了後に、子どもたちの全体像を作業療法評価して提示することが、今までの保育士の捉え方とは違い、療育に反映できるととらえていた。

佐藤は「障がいのある児童生徒の療育に関わる専門職の協働に関する研究」¹³⁾のなかで、

特別支援学校の教育専門職は、幼稚園／保育所、療育機関等との連携を望むことが明らかにされている。さらに佐藤は「療育に関わる専門職の協働に関する研究」¹⁴⁾の中で、協働は必要で大切な事項ではあるが、「相手の価値観」「相手の専門性」に難しさを感じ、「コミュニケーションの取りにくさ」にも心を砕いていることが明らかにされている。そして現実問題として小林は子どもの問題を抱える2家族を通しての分析で、連携ネットワークの重要性を明らかにしている¹⁵⁾。

療育機関で作業療法士が非常勤で要請されることは近年多くあり、私たちの専門性を多職種にまだ十分知られているとは言い難い状況の中、小幡はその活動をまとめた実践報告の中で作業療法の視点を地域に還元していくことを述べ⁷⁾、友宗も地域へのアピールの必要性を述べている⁶⁾。

今回の調査分析では、作業療法士が療育に関わることは、「必要な動きに気をつけながら療育することで子どもの発達を促している」「職員は得た知識を活動や遊びの中にくみだてることができる。身体の動きの知識が増えたことで自信を持って療育に取り組める」「親にとってはアドバイスを受けることで支えになっている」「作業療法士の意見をもとに集団生活の中で楽しい遊びを作り上げていき、スモールステップを明確にした子どもに向きあう療育が可能になっている」との意見に集約された。これらの意見は10年以上の療育との協業が現場スタッフに受け入れられたこととして素直に喜ぶたい。

＜まとめと今後の課題＞

また今後の課題として個別の作業療法だけでなく集団の中の子どもの姿をみることに時間をとってみたいとの要望が出され、この件に関しては早速施設側との話し合いがもたれ、作業療法士が行く1日の中で必ず集団療育に入る時間を確保するという対応につながった。

今回の調査の限界として、調査を依頼する際に「私たちは現場のスタッフに作業療法がどのように役立っているかを知りたいし、さらなる改善点を探りたいので、要望・思いを忌憚なく記してほしい」と口頭でも要請していたが、書かれたものは作業療法について否定的な要素は全くなかった。これは無記名であるとはいえ、今後も共に協働していくことが明らかな作業療法士たちに向かって書きにくいことなのだろうと予測する。

安城市では保育園・幼稚園の訪問回数の増加は毎年のように要請され、やまびこルームへの関わりも増やすように要請されているが、なかなか応えることが難しい状況である。今後もさらに地域に根付いた作業療法を提供していきたい。

本稿は第45回日本作業療法学会で発表したものに加筆した。

文献

- 1) 沼田 士嗣, 村田 和香, 池田 保: がん生存者に対する協業的作業療法の有用性作業療法 作業療法, 26 (2): 144-154, 2007.
- 2) 石渡 悟士: 民間企業と協業しての精神障害者作業所の実践的就労支援 (働くことの意義と支援), 作業療法ジャーナル, 43 (7): 686-688, 2009.
- 3) 阿部 真也: 一般病床における入浴に関する実践報告—作業療法士と他職種との協業, 昌賢学園群馬社会福祉大学論集, 7, 283-288, 2008 昌賢学園群馬社会福祉大学.
- 4) 浅野 友佳子, 廣田 龍子, 中村 真理子: 通所型介護予防事業との関わり 妹背牛町での協業の一例 北海道作業療法, 24 (1): 27-29, 2007.
- 5) 中島愛, 池田誠: 訪問リハビリテーションにおける PT・OT の協業に関する調査研究—専門分野と利用者ニーズをふまえて—, 理学療法科学, 25 (4): 645-648, 2010.
- 6) 友宗美菜子, 灘裕介: 地域でつながる子育て支援—作業療法士の役割と多職種との協業—, 第31回近畿作業療法学会誌: 108-109, 2014.
- 7) 小幡一美, 大歳太郎: 地域における作業療法士の専門性, 第44回日本作業療法学会誌, 2010.
- 8) 徳江与志子, 新井真由美, 他2名: 広汎性発達障害児に対するチームアプローチ: 幼稚園訪問を通して, 群馬大学保健学部紀要, 22: 71-77, 2002.
- 9) 大谷尚: 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学), 54, (2): 27-44, 2008.
- 10) 大谷尚: SCAT: Steps for Coding and Theorization—明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法—, 感性工学, 10 (3): 155-160, 2011.
- 11) 岸本光夫: 作業療法士 (コメディカルスタッフの役割) 小児と神経, 72 (8): 1501-1506, 2009.
- 12) 加藤晃代, 里見達也, 浅沼秋穂: 作業療法士と教員とのチームアプローチに関する研究—給食指導場面における評価表の作成と活用, 心身障害学研究, 29: 207-217, 2005.
- 13) 佐藤孝子, 久保恭子, 他6名: 障がいのある児童生徒の療育に関わる専門職の協働に関する研究: 特別支援学校の教育専門職に対する調査小児保健研究, 69 (3): 447-456, 2010.
- 14) 佐藤孝子, 久保恭子, 他6名: 療育に関わる専門職の協働に関する研究 (第1報) 保健・福祉の専門職に焦点をあてて, 埼玉医科大学看護学科紀要, 1 (1): 51-60, 2008.
- 15) 小林理, 横山寛子, 他2名: 保健・医療・福祉専門職の連携の実態と課題: 子どもの問題をかかえる2家族をととして分析, 東海大学健康科学部紀要, 10: 31-38, 2004.

(やまだ たかこ 作業療法学科)

(ひらいわ あけみ サルビア学園)

2012年10月1日受理

